



日本歯科色彩学会
https://jacd-dc.jp

日本歯科色彩学会 ニュースレター

NO. 72

日本歯科色彩学会事務局
日本歯科大学 新潟生命歯学部 歯科保存学第2講座 内
〒951-8580 新潟市中央区浜浦町1-8 発行日/2024年 4月10日
発行人/新海航一 TEL/025-211-8173 MAIL/jacd@ngt.ndu.ac.jp

会員のメールアドレスを学会事務局宛へお知らせ下さい

第31回日本歯科色彩学会 総会・学術大会のご案内

大会長 木暮 ミカ
(明倫短期大学 歯科衛生士学科)

第31回日本歯科色彩学会学術大会を、令和6年7月6・7日に新潟市内の白山神社を会場として開催いたします。今大会は「医療 DX がもたらす歯科色彩の未来」をテーマに日本デジタル歯科学会様と共催させていただき、今後ますます普及が進む歯科治療におけるデジタルワークにおいて、「色彩」データの取り扱い方について、歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士がどのように連携を取るべきかを議論できれば幸甚に存じます。今大会では学生会員の参加と本学会への入会を奨励するために、学生の参加費を無料にしましたので、奮ってご参加ください。

シンポジウムでは日本デジタル歯科学会の末瀬一彦理事長、(株)Dental Prediction 代表取締役 CEOの宇野澤元春先生、(株)デンタル デジタル オペレーションの山下茂子先生にご講演いただく予定です。また講演の後半では新潟県歯科医師会の松崎正樹会長にもご登壇いただき、これからの歯科医療の方向性について御三方からご対談いただく予定です。

午後の講習会では口腔内スキャナーに焦点を当て、実際に「Trios」「Prime Scan」「iTero」3機種に触れさせていただき、DX導入をイメージしていただくことで、新潟での歯科治療のデジタル化の普及に貢献できればと考えております。

また、今回の大会では前日の7月6日に見学会も同時開催いたします。今年度は「クラレノリタケ」の新潟工場(胎内市協和町3-176-3)を見学いたします。工場見学の後、同工場の研修室にてランチオンセミナーも予定しておりますので、こちらも是非ご参加ください。見学会では無料の送迎バスが出ます(送迎の途中で現代司酒造にも立ち寄ります)。

大会前夜の懇親会は信濃川ウォーターシャトルサンセットクルーズを予定しております。夏の夕暮れ時を優雅な水上バスの上でゆっくりと沈んでいく太陽が作り出すサンセットグラデーションに包まれながら会員間の親睦を深めていただき、その中から新たな研究テーマの発掘や共同研究の立ち上げにつながることを期待しております。

会場の白山神社は新潟市の中心街に位置し、「新潟の総鎮守」として新潟県を代表する神社であると同時に「歯の神様・医療安全の神様」としても有名な大社です。また、今回はリアル会場とは別にメタバース会場を設置いたします。参加者同士アバターを介して会話することもできますし、協賛企業の方々と商品についてのオンライン個別説明会などの予約も可能ですので、学会のDX運営もぜひご体験ください。

ぜひ多くの会員の皆様のご来場をお待ちしております

ます。

“特集” ～私の研究室紹介～

“特集”「私の研究室紹介」は今号で第4弾となりました。大学や研究所などにご所属の会員の先生方から所属先の紹介記事をお寄せいただくことで、会

員同士の交流や共同研究のきっかけになればと考えております。お忙しい中、原稿をご執筆いただいた山口秀紀先生に心より感謝申し上げます。

(ニューズレター編集委員長 金子 潤)

日本大学松戸歯学部 歯科麻酔学講座

山口 秀紀

◆講座の沿革

当講座は、日本大学松戸歯学部が開設された1971年から二年後の1973年7月11日に口腔外科学教室から独立し「麻酔学教室」として開設されました。2021年からは教室の名称を「歯科麻酔学講座」に変更しています。また大学の付属病院組織においては「麻酔・全身管理科」として活動しています。現在、常勤歯科医師12名、非常勤医員30名がそれぞれの個性を活かしながら臨床、教育、研究にあたっています(写真1)。

◆臨床・教育・研究

付属病院では、院内の全ての診療科の患者を対象とし全身麻酔、精神鎮静法を応用した患者管理を行っています。担当する症例は、口腔内診査から口腔がんの頸部郭清手術まで多岐にわたり、年間2,000例を超える症例に安全で快適な歯科診療を提供しています。

教育面では、麻酔・全身管理に関する領域はもちろん、歯学教育における医療安全、感染管理の講義も担当しています。また本学開学以来、東洋医学や歯科医



写真1 スタッフ集合写真

史学に関する授業も当講座が担当しており、特に歯科医学史に関しては1年次に16回の講義を充て、歯科の歴史教育にも力を入れていることは、本学そして当講座の特徴とも言えます。

研究面では、臨床に有用な生体モニタリングの開発を目的に、全身麻酔や鎮静法のみならず一般歯科診療での安全向上に役立つ装置や測定法について研究を進めています。その中で、診療室の色彩が自律神経機能に及ぼす影響に関する研究結果は、本学会でも報告させて頂きました（写真2）。今後も麻酔・全

身管理の手技や手法を応用し、色彩環境や色彩心理に関する研究に取り組んでいきたいと思っております。

◆社会貢献など

当講座は、日本歯科麻酔学会および日本有病者歯科医療学会の指導施設に認定されており、学会認定医や専門医資格取得者を多数輩出しています。また資格取得者は障害者施設や口腔保健センター、関連病院、歯科診療所などさまざまな医療施設で麻酔担当医として活躍しています（写真3）。



写真2 自律神経測定装置を用いた色彩環境に関する研究風景



写真3 手術室では職種や診療科でユニフォームカラーを変えています。

2023 年度 各種委員会報告

見学会委員会（委員長 中澤 章）

今年度 Dental Prediction 見学会につきましては、先方様の急なご事情で実地見学が困難となりましたので、オンデマンド開催を検討しましたが、直接の講演と見学希望が複数寄せられましたので延期とさせていただきます。参加申込をされた先生方にはご迷惑をお掛けして申し訳ございませんでした。なお、CEO の宇野澤先生には夏の新潟での学会大会のシ

ンポジストとしてご登壇いただく予定です。

来年度の見学会は学会大会と併催でクラレ・ノリタケデンタルの新潟胎内工場見学を予定しています。詳細につきましては、学会案内をご覧いただき、またとない機会ですのでご参加いただきますようお願い申し上げます。

機関紙編集委員会（委員長 堀田 正人）

2023 年度の機関紙編集委員会の活動内容と今後の予定について

機関紙（歯科の色彩）は今年度でちょうど 30 年の節目を迎えました。記念すべき第 30 巻第 1 号は 2024 年 3 月 31 日発行で、4 月には会員の皆様のお手元にお届けできるように、2023 年度 10 月 10 日には論文投稿のお願いを会員の皆様にメール配信を行いました。第 30 巻第 1 号の投稿数は原著 2 編、総説 5 編の論文が集まる予定であると新海会長からメールを頂きました。原稿締切りの 2023 年 11 月 10 日には原著 2 編の投稿があり、査読依頼となりました。2023 年度第 3 回常任理事会（2023 年 12 月 22 日）において、原著論文 2 編、総説論文 2 編の投稿があり、査読もほぼ終了していること、総説論文は 4 編になる予定で、巻頭言、次期学術大会の案内及び編集後記の執筆依頼も行っており、2024 年 3 月 31 日に発行予定であることを報告致しました。2024 年 2 月には著者校正の原稿をメールし、修正原稿が集まってきて

いる状況です。新海会長、事務局の鈴木先生には大変お世話になっており、機関紙編集の仕事をほとんど行っていただいています。

今後の機関紙編集委員会の予定というか、協議中の案件ですが、機関紙（歯科の色彩）の論文抄録（英語、日本語）をホームページに掲載してはどうかという意見や機関紙（歯科の色彩）に学会役員や委員会構成メンバー、認定士などを掲載してはどうか等の意見があります。また、投稿数の増加対策、若手研究者支援等についての問題提起等もあります。

機関紙（歯科の色彩）は 30 年の節目を迎えて、次の 10 年に向けての行先（方向性）を再度見つめ直す時期に来ているように思います。機関紙（歯科の色彩）は会員皆様の研究・臨床成果を多くの方々に発信することができる場です。皆様からのご投稿を心よりお待ちしております。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

認定士委員会（委員長 中山 友克）

認定士委員会では、認定士資格の審査や制度運営を行うと共に、学術大会「講習会 2」の企画・運営を担当しています。

第 31 回学術大会では、大会長である木暮ミカ先生（明倫短期大学）が掲げるテーマ「医療 DX がもたらす歯科色彩の未来」に即した講習会となるよう計画中です。本講習会が歯科色彩の分野でご活躍されている先生方のご研究や診療に資することができる

よう準備しています。

また、認定士資格取得の申請も随時受け付けておりますので、まだ取得されていない先生方もぜひ取得していただき、歯科色彩学の高度な研究と水準の維持向上を図っていただければ会の発展にもつながりますので、ご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。」

ホームページ委員会（委員長 木暮 ミカ）

本会のホームページは昨年、デザインを大幅に変更しましたが、発信している情報は旧来通りであり、その内容もリニューアルが必要と思われます。そこでホームページの今後の活用方法について以下の改善を提案します。

1. コンテンツの充実

- ①会員特典やイベント情報、活動報告などのコンテンツを定期的に更新し、訪問者に新鮮な情報を提供する。
- ②若い世代にアピールするためのコンテンツも充実させ、彼らの興味や関心に合った情報を提供する。

2. ソーシャルメディア(SNS)との連携
 - ①ホームページを通じて SNS へのリンクを設置し、若い世代にもアクセスしやすくする。
 - ②SNS 上でのコミュニティ活動や情報発信を強化し、ホームページへの流入を促進する。
3. オンライン登録や入会プロセスの簡素化
 - ①ホームページ上での会員登録や入会手続きをスムーズにするためのオンラインフォームを導入する。
 - ②登録プロセスを簡略化し、入会手続きをわかりやすく案内することで、新規会員の獲得を容易にする。
4. 参加体験の強化
 - ①ホームページ上での会員限定コンテンツやオンラインイベントを提供し、会員の参加体験を向上させる。
 - ②ユーザーが参加したくなるような魅力的な活動やコンテンツを提供し、会員同士の交流を促進する。
5. フィードバックの収集と改善

- ①訪問者や会員からのフィードバックを積極的に収集し、ホームページの改善点を把握する。
 - ②収集したフィードバックを元に、ユーザーのニーズに応えるような改善を継続的に行い、サイトの質を向上させる。
- これらの改善を通じて、ホームページをより魅力的で使いやすいものにし、歯科の色彩に関連する知識や技術の情報提供をすることで、会員の増加はもちろんのこと、会員以外の先生や同種業界および一般の方々にも広く本会の活動を知っていただくための啓発活動にも繋がるのではと考える次第です。具体的な情報発信の方法として、既刊「歯の色の話」の内容をコラム形式で連載していくことを計画しております。ホームページからの情報発信に積極的に取り組んでいくことが、本会の存在意義を高めるために必要なのではないのでしょうか。特に SNS による情報の拡散は、会員の皆様のご協力がなければ成立しない方法ですので、ご協力いただければ幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

学会事務局よりお知らせ

幹事 鈴木 雅也

(日本歯科大学新潟生命歯学部 歯科保存学第2講座)

日頃より本学会の運営にご理解をいただき、誠にありがとうございます。さて、本学会では機関誌「歯科の色彩」を年1回(3月)発行しております。原著論文のほか、総説、症例報告、技術紹介、レビューなども受け付けております。原稿締め切りは11月頃で

すが、基本的には随時募集しております。会員の皆様と有益な情報を共有できる貴重な機会ですので、是非ご投稿いただければ幸いです。投稿に関してご不明な点がございましたら学会メールアドレス(jacd@ngt.ndu.ac.jp)にお問い合わせ下さい。

【編集後記】

暦の上では、春分が過ぎ少しずつ春らしい日が増えてもよい季節のはずが、今年は桜の蕾もなかなか膨らまずお花見はもう少し先にお預けになりそうです。

日本経済や世界情勢など、私たちの置かれている環境も目まぐるしく日々変化しており、明るい話題が少し乏しいように感じますが、様々な情報に溢れていて自分が必要な情報を選択しきれていないのか

もしれません。

2024年の干支は「甲辰（きのえ・たつ）」です。干支にはそれぞれ意味があり、古来より物質・精神を問わずに様々な用途で使われてきました。それによると「甲辰」は、「春の日差しが、あまねく成長を助く年」になるようです。春の暖かい日差しが大地すべてのものに平等に降り注ぎ、急速な成長と変化を誘う年になりそうなのです。

今年の学術大会のテーマは「医療 DX がもたらす歯科色彩の未来」と題して、日本デジタル歯科学会と共催で開催されます。歯科診療を行うにあたり、デジタル機器がなくては成り立たない時代になりました。医療 DX について知識をアップデートして診療技術や患者様へ還元していけたらと思っています。更に、メタバース会場も設けられワクワクする学術大会が開催されることが今から待ち遠しいです。

(小澤 有美)



日本歯科色彩学会ニュースレター編集委員会 金子 潤、新海 航一、中山 友克、小澤 有美